

平成31年度 竜王北中学校校内研 研究の概要

(1) 研究主題

「自ら学ぶ力」を身につけた生徒の育成

～「主体的・対話的で深い学び」を目指して～

(2) 主題設定の理由

昨年まで、道徳の指定を受け「考え、議論する授業」について研究してきた。その中で、北中ボード（手作りホワイトボード）や付箋紙を思考のツールとし、小集団での話し合いを取り入れた授業を実践してきた。その結果、道徳に限らず教科の授業にも「考え、議論する場面」を取り入れるようになった。これによって、生徒が主体的に授業に取り組む姿勢が見られるようになってはきたが、授業で学んだことを定着させるための学習には結びついていない。

そこで、家庭学習などの復習にも主体的に取り組むことができれば、授業で学んだことが知識や技能として定着し、知識や技能が定着することでさらに深い学びへと発展するのではないかと考え、①授業に積極的に参加しよう（学ぼう）とする力②授業を振り返り、基礎学力を定着させようとする力③関心や意欲をもち、既習の知識や技能を活用して問題を解決しようとする力の3つを『自ら学ぶ力』と考え、新指導要領のキーワードとなっている「主体的・対話的で深い学び」を目指し、社会人になっても学び続け、成長する生徒を育成したいと考えた。

(3) 研究仮説

「主体的」な学び

「学ぶ意欲」を高めるためには「わかった」「できる」等の『実感』がほしい。そのためには、授業や家庭学習での振り返りによって基礎学力を定着させ、できなかったことができたり、解けなかった問題が解けたりする成功体験を積ませたい。その積み重ねた体験の結果によって、自分の成長を実感することができ、学びの意欲が高まるであろう。

「対話的」な学び

昨年まで取り組んできた小集団を活用した「考え、議論する」授業を継続し、小集団での話し合いや調べ学習を取り入れた授業を実施することで、受け身ではなく能動的な学びが引き出せるだろう。

また、対話的な学びによって、独りよがりの偏った考えに陥ることなく、広い視野をもつこともできるだろう。

「深い」学び

振り返りによって基礎知識が定着したり、対話的な学びによって自分の考えを深めたりすることで、学んだ内容・過程・方法を自覚し、意味づけることができる。そして、新たな課題や意欲が生まれてきた時に、既習の知識や技術を活用して問題を解決する力がつき、さらに深い学びが可能になり、『自ら学ぶ力』が育つだろう。

(4) 目指す生徒像

- 「自ら学ぶ力」
- ・積極的に授業に参加しよう（学ぼう）とする力
 - ・授業を振り返り、基礎学力を定着させようとする力
 - ・関心や意欲をもち、既習の知識や技能を活用して解決しようとする力



社会人になっても学び続け、成長する生徒

(5) 研究の内容

1. 学習の『振り返り』に関する研究

- ①学習の『振り返り』に関する生徒の意識調査実施
- ②『北中ノート』の成果や課題の考察と改良
- ③OPPシート実践者を招いての学習会と実践

2. 思考ツールを活用した授業の工夫

- ①『北中ボード』（ホワイトボード）や『付箋紙』の効果的な使用方法と授業の工夫
- ②『北中ボード』（ホワイトボード）や『付箋紙』を活用した授業の実践
- ③教員相互の授業見学による指導力の向上

3. 道徳指導の研究

- ①教科書を使用した道徳授業の指導案&ワークシートの作成
- ②全教職員や保護者、地域の方々が関わる道徳の実践
- ③生徒の変容が伝わる道徳の評価の研究